岐阜大学機関リポジトリ
Gifu University Institutional Repository

# 情報教育の地域教育施設と学校教育の連携に関する調査研究



| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2008-02-22<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 後藤, 忠彦<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12099/60 |

# はしがき

学校教育と地域の教育施設の連携は，社会の高度化に伴いますます重要となってくる。とくに，情報教育のような新しい教育分野では，学校教育と地域社会が相互に補完しあい，新しい情報化社会での適応力を育成する必要がある。情報教育は，社会が情報化へ発展していくプロセスでの教育であり，社会の情報化に対応した学習指導が必要となってきている。

また，情報の内容整備は，学校教育よりも社会が先行しているのが現状であり，情報活用の面でも学校と社会の連携が必要となってきている。このような状況においては，学校と社会を連携させる役割をもつ社会教育施設が情報教育でも重要となってきている。ところが，情報教育において，学校と地域の社会教育施設の学習指導方法，教育内容などの連携がまだまだ整備されておらず，それぞれが関係なく進められているのが現状である。今後，それぞれの学習指導上の特性を配慮した情報教育のカリキュラムの構成および学習環境の整備が必要とされる。このため，学校で教育すべきその学習領域と地域施設での学習の内容，方法，環境等を検討し，その連携の在り方を検討した。

地域の教育施設での情報教育の可能性としては，地域の青少年科学館，青少年自然の家，図書館，生涯学習センター，公民館などの各教育施設がある。このため，そこでの情報教育が学校と連携して学習指導を可能とする学習環境、参加者への学習支援，情報内容の流通などの実態について調査し，今後の可能性について検討した。その結果，地域の教育施設での情報教育には，学校と施設で利用可能な情報教育のカリキュラムを基礎に地域のもつ各種地域情報のデータベースなどを活用した身近な資料を用いた情報教育が有効であることが分かった。

学校教育での情報教育の可能性としては，小学校でコンピュータを児童に学習方法・内容等を制限しなく，自由に利用させ，どのような学習が成立するかの調査を進めた結果として，手引き書を渡せば教師の指導がなくてもグループ学習活動で十分活用でき，その基礎基本的な事項をいかに教育するかが課題である。

地域教育施設の学習では，学校と連携するため，地域の施設と学校を通信ネットワーク

で結び，教師も指導できる方法について確立した。

学校教育での基礎・基本的な内容と教科への適用としては，小学校での発達過程に応じた情報教育カリキュラムを構成し，学校教育を基礎にして社会教育施設等での学習活動を進める基本的な学習事項を明確にした。

それを用いて，地域教育施設での情報教育の補充・発展学習としては，学校と地域の教育活動をテレビ会議システムで結び，相互に連携した学習環境を構成し，学校の教師が社会教育施設での児童・生徒の情報活動の支援の可能性を明らかにした。

このように，学校・地域施設の連携した情報教育は，具体的な地域情報を用いたカリキュラムおよび学校・施設間が連携した遠隔教育を用いた教育システムを構成する必要があり，そこで本研究では，学校と地域教育施設で共通利用できる情報教育カリキュラムおよび教材を開発し提供可能とした。地域と学校が連携し，今後，新しい学習指導要領の総合的な学習や週休2日制などに対応した教育システムとして機能できればと考える。

この研究に対し，ご協力いただいた谷汲村を始め，関係教育委員会の生涯学習施設の関係者に厚く感謝の意を表す。

研究代表者　　後　藤　　忠　彦

（岐阜大学教育学部教授）